アロハタワーの眺め

ホノルル港のシンボルの一つがアロハタワーだ。1926（昭和 1）年に建てられた歴史的建造物で、当時のハワイ諸島の中で最も高い建物であった。4 面に取り付けられた大時計は、ボストンのハワード・クロック・カンパニー製で、一つの重量は 7 トン。その上に「ALOHA」文字が刻印されている。それは「こんにちは」「さようなら」の言葉の意味ではあるが、その中にハワイ独特の優しい思いやりがあるようだ。

その昔、世界の交通手段は今のような空路はなく、すべて海を使っての客船で往来していた。海運国・日本も世界航路をいくつも持っていた。そのうちの一つにハワイ航路があった。1948（昭和 23）年の敗戦間もない混乱の日本の社会にあって、国民に夢と希望を与え明るさを取り戻してくれたのは歌謡曲であった。その頃一世風靡したヒット曲に「憧れのハワイ航路」（石本美由起作詞　江口夜詩作曲）がある。岡晴夫の晴れ渡る歌声は日本を明るく元気にしてくれた。

「♪～晴れた空　そよぐ風　　港　出船の　ドラの音愉（ねたの）し　　別れテープを　笑顔で切れば
希望はてない　遥（はる）かな潮路　　ああ　憧（あこが）れの　ハワイ航路　～♪」

アロハタワーは 80 年余りもの長きに渡り、世界中の人たちに夢と希望を与えてきた。そして常夏の島ハワイの玄関口で、ホノルル港を行きかう人達を見守り続けてきた。私も無料だということもあって、古めかしくも趣があるエレベーターで 10 階の展望台へ登った。ここには四方向に展望デッキがある。そこからの眺めはまるで「世界平和の縮図」がこのハワイにはあるように私には見えた。

撮影 2010 年冬